

1. 内大臣 2. 征夷大將軍 3. 関白 4. 太政大臣

1. 藤原氏が摂政や関白の職を独占する摂関政治が行われ、貴族の間で極楽浄土への往生を願う浄土信仰が広まった。
2. 源頼朝が鎌倉に幕府を開いて武家政治が始まり、厳しい修行によって悟りを開こうとする禅宗が武士の間で流行した。
3. 徳川家康が江戸幕府を開いて社会の安定がもたらされ、幕府の統治を正当化するために儒教の一派である朱子学が奨励された。
4. 聖武天皇が国ごとに国分寺を建立して中央集権化を図り、仏教の力で国家を守ろうとする鎮護国家の思想が定着した。

1. 各地の戦国大名が城下町を整備し、
商工業者から営業税を徴収して軍事費に充てた。
2. 将軍から土地を仲介された地頭が、
農民から年貢を取り立てて幕府へ送った。
3. 廃藩置県によって中央から派遣された
県令が、近代的な地租改正を行った。
4. 朝廷から派遣された国司が、現地の
政治や徴税の実務を指揮し、中央の
財政を支えた。

1. 遣隋使や遣唐使の派遣により、大陸の進んだ制度や仏教文化が直接導入された飛鳥・奈良時代の文化が続いた。
2. 平家を倒した源頼朝の時代に、東大寺南大門の金剛力士像に代表される力強く写実的な文化が生まれた。
3. 遣唐使の廃止などを背景に、日本の風土や日本人の生活感情に合わせた国風文化が発達した。
4. 足利義政の時代に、書院造や水墨画、茶の湯など、現代の日本文化の源流となる文化が形成された。

1. 仏教の經典を輸入して鎮護國家の思想を広めるために貿易を行い、寺院建築の技術が日本全国に普及した	2. 武士としての経済的基盤を固めるために貿易を推進し、流入した宋銭は日本の貨幣経済が発展する契機となった	3. モンゴル帝国の襲来に備えるための軍資金を得る目的で貿易を行い、博多の街に強固な防塁が築かれた	4. 倭寇による被害を抑えるために勘合を用いた制限貿易を行い、国内の商工業者が座を結成するきっかけとなった
--	---	---	---

1. 聖武天皇の時代を中心に、仏教の影響を強く受けて唐の文化を取り入れた文化	2. ヨーロッパとの貿易を通じて、キリスト教や油絵などの西洋技術を取り入れた文化	3. 武士の精神と禅宗の影響が結びつき、質素で深みのある美しさを表現した文化	4. 中国文化の影響を受けつつも、日本人の生活や感情に合わせて発展した文化
--	--	--	---------------------------------------

1. 最澄は、社会不安を取り除くため、浄土信仰に基づいて念仏を唱える教えを民衆に広めた。
2. 最澄は、比叡山に延暦寺を建立し、厳しい修行を通じて国家の安泰を祈る天台宗を広めた。
3. 最澄は、奈良の寺院勢力の協力を得て、東大寺で新しい戒律を広める活動に従事した。
4. 最澄は、唐から招かれた高僧として、日本に正しい僧侶のルールである戒律を伝えた。

1. 白河上皇 2. 織田信長 3. 北条泰時 4. 平清盛

1. 鴨長明が乱世の無常を記した『方丈記』

1. 古今和歌集・源氏物語・枕草子 2. 万葉集・古事記・日本書紀 3. 東海道中膝栗毛・おくのほそ道
・南総里見八犬伝 4. 新古今和歌集・平家物語・徒然草

1. 遣唐使の廃止に伴い、海外との交流を制限するために大輪田泊の機能を縮小させた。

2. 鎌倉に幕府を置いていた北条氏が、対外貿易を統制するために博多に拠点を築いた。

3. 現在の神戸市にあたる大輪田泊を修築し、兵庫津を整備して宋との貿易を推進した。

4. 足利義満が明との間で勘合貿易を行い、兵庫の港を幕府の直轄地として整備した。

1. 日野富子 2. 北条政子 3. 持統天皇 4. 紫式部

1. 遣唐使の中止以降、閉ざされていた海外交易を再開するため、菅原道真の末裔とともに東シナ海の制海権を握った。
2. 武士として初めて太政大臣に任命されたことを記念し、平氏の氏神である厳島神社へ宋の商船を直接入港させた。
3. 聖徳太子以来途絶えていた中国との国交を回復し、宋から仏教の経典を取り寄せることを主な目的とした。
4. 現在の神戸市にあたる大輪田泊を修築し、宋の金貨や香料などを輸入して、日本の銀や硫黄などを輸出した。